



このコーナーでは、市内各地で行われたイベントや市民の活動をご紹介します。皆さんの身近で行われる楽しい催しなどありましたら、総務課広報広聴係(☎43-7025)までお知らせください。

入学おめでとう大会(2月3日)

比内とりの市 (1月26、27日)

比内地域の冬の風物詩「比内とりの市」が、比内グラウンドで行われました。初日は雪が降り続いたものの、2日目は快晴。市内外から、約3万人が来場しました。毎年恒例の「比内地鶏かやき鍋」や「比内地鶏千羽焼き」は今年も大人気で、用意した分は全て完売。

今回は地域おこしを通じて交流のある徳島県勝浦町の地域おこし協力隊が参加し、ミカンの販売やミカンの皮をどれだけ長くおけるかを競う「モーグランプリ」を行いました。また、キャッチボールの要領で卵を投げ、うまく捕れた時の距離を競う「比内地鶏卵キャッチ」や、比内地鶏を走らせ順位を当てる「比内鶏ダービー」などが行われ、訪れた来場者は「トリづくし」の冬祭りを楽しみました。



走らない鶏に悪戦苦闘



大人気の千羽焼き



勝浦みかんも完売!

市内各地で合同年祝い (2月1日)

厄年の災いを払い、福に転じさせる伝統行事「合同歳祝い会」が市内の各地で行われました。各会場には数え年で60・42歳になる男性、33歳になる女性が一堂に会し、「形代」という、紙を人の形に切ったもので体をなでて厄を払いました。神事の後、久しぶりに再会した級友と、人生の節目を祝い合いました。



形代で厄を払いました(田代地域)

(2月1日)

威勢よく「福は内」 (2月3日)

節分の3日、市内各地で豆まきが行われました。大館八幡神社では、氏子らで組織する大館八幡会(金澤宏会長)の主催で毎年行われていて、今年で39回目。数え年で42歳となる年男や会員などが「株姿」になり、「福は内、福は内」と勢い良く豆をまきました。八幡神社の豆まきは、神事で鬼を追い払った福豆をまくことから「鬼は外」の掛け声は無く「福は内」だけ。雪が吹き付ける中、神社には約70人が集まり、子どもも大人も次々とまかれる豆を夢中で拾い、縁起の良い豆を手にして喜んでいました。



福は～内、福は～内